

移行期管理のポイント

社会性と採食量・疾病

< 乾乳後期ペンとフレッシュペンの頭数 >

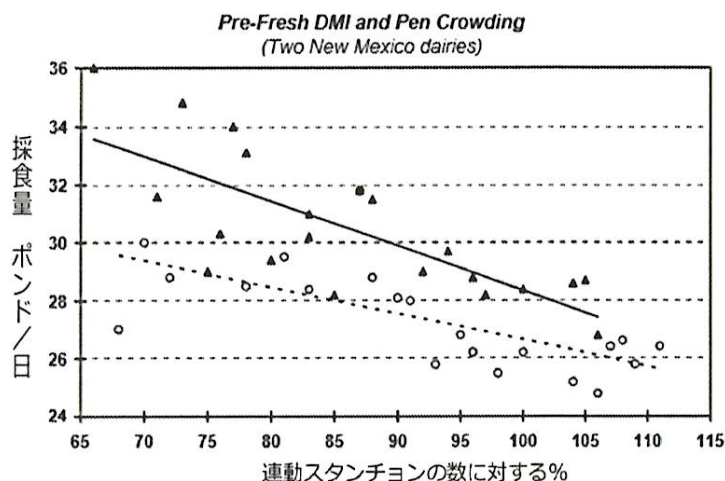
図は移行期ペンの飼養頭数を70%から100%に近づけるほど採食量が落ちていくことを示しており、100%では70%に比べ採食量が15%ほど低下しているのがみて分かります。

搾乳牛では同じ状況にしてもこんなに劇的な採食量の低下は起こりません。

また、搾乳牛での15%の採食量低下は、乳量が出ない・繁殖が悪くなるなどの問題で済むと思いますが、移行期牛の場合は、栄養不足と脂肪動員、それに引き続く代謝性疾患へと

健康性に非常に大きな負のインパクトを与え、時には生命の危険をもはらんでいます。

なぜ、移行期牛は搾乳牛に比べて多くのスペースが必要なのでしょう？



< 移行期の競合は採食と休息行動を変化させる > ~移行期ペンは闘争のメッカ~

牛は群れで生活する動物です。多くの動物種で、個体が集まって群れとなるとときには必ずと言っていいほど順位付け行動（闘争行動）が起こり、牛の世界でも例外ではありません。

しかし一度順位付けが終わってしまえば群れは安定し、新しい群れでも2~3日で安定すると言われています。

移行期の群（乾乳後期とフレッシュ）は移動の間隔が短かく、牛の出入りが次々と起こることで、もともと闘争行動の多い群であると言われています。

特にペンの飼養密度が高くなるほど出会いと闘争の機会が増え、採食行動と休息行動を妨げることになり、その後の健康性に影響を及ぼすこととなります。



<弱い牛だけでなく強い牛にも悪影響>

周産期の競合と疾病に関する研究が多くなされています。多くの研究が

「社会的順位が低い牛ほど周産期疾病のリスクが高い」という報告をしていますが、興味深いことに、その反対の

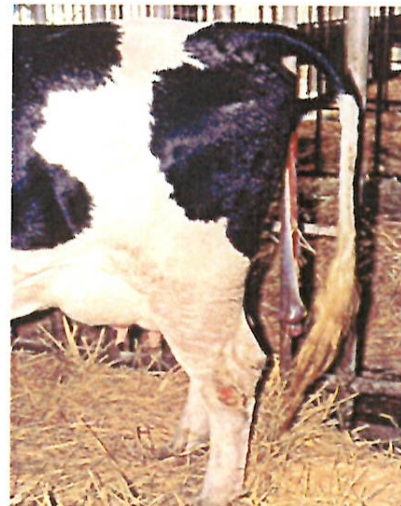
「社会的順位の高い牛も周産期疾病のリスクが高まる」という報告も非常に多いのです。

つまり、弱い牛はエサ場から追われてエサが食べれないしゆっくり休息できない。

反対に、強い牛もエサ場から弱い牛を追い払うのに忙しくて満足にエサが食べれないしゆっくり休息してもらえない、ということが起きているというわけです。社会的中位の牛がもっとも健康的であったという報告もあります。

さらに興味深いことに、多くの研究が闘争行動の結果増加する疾病は「後産停滞と子宮炎」と報告しています。

過密飼養がおこっている顧客農場で後産停滞が増加するということを私も経験しています。



<移行期ペンの適正頭数 2ロウ牛舎はベッド数の70%>

移行期ペンでの闘争行動を減らすためには余裕のあるスペースの確保がもっとも効果的です。

エサ場スペースを1頭当たり最低80cm（できれば1m以上）になるような頭数管理が必要です。ベッド数で換算すると2ロウ牛舎でベッド数に対して70%、3ロウ牛舎で50%が飼養頭数の限界です。

またこれから移行期ペンを建設しようと思っている農場は、平均的な乾乳頭数やフレッシュ牛頭数の140%のキャパシティーのある施設をつくる必要があります。

これは繁殖管理によっては乾乳頭数の多い月、分娩頭数の多い月があるためです。

余裕のない牛舎では、移行期ペンの飼養頭数の増えるタイミングで疾病も増加することが起こりがちです。